

医学部後援会

副会長 小笠原 範之

今年は、これまで、猛暑に大雨、台風、地震と何かと災害の多い1年でした。医学部後援会も“オール順天堂”の一員として、「平成30年7月豪雨義援金」に協力させていただきました。来年は、ぜひ穏やかな日々であってほしいものです。

医学部後援会の運営上、大きな会合は年に3回あり、春の役員会、6月の総会、そして秋の三役会です。秋の三役会では、時には議題以上に、やはり「箱根」が話題になります。

2019年新春の第95回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）は、順天堂大学は予選会からの参加になりましたが、みごとに参加39校中2位で予選を突破致しました。これでお正月が、益々楽しみになりました。

今回の予選会で箱根路を競ったのは23校で、例年より1増の上位11校が出場権を獲得できました。「駅伝マラソン.com」の7月末時点の分析では、予選会から本戦出場11校中、順天堂は安全圏の6位で予選通過予想でしたが、予想をはるかに超える活躍でした。

さて、今回の予選会の話題は、先の6月28日に関東学生陸上競技連盟から、競技距離を長年慣れ親しんだ20キロからハーフマラソン（21.0975km）に延長すると発表されたことです。20kmは記録に残らないが、ハーフは記録として残るということのようにです。さてこの1km少しが結果にどんな影響をもたらしたのでしょうか。興味のあるところです。

ちなみに、医学部後援会は今から43年前の昭和50年（1975年）に発足していますが、この年に開催された第51回箱根駅伝では、全15校中順天堂大学は惜しくも2位という記録が残っています。

順天堂大学が、その後の半世紀あまりを経て、箱根のみならず、スポーツ全般、医学部そして大学病院の経営実績等において、わが国における大学、医療機関経営のトップランナーとしての地位を確立したことは、誇らしい限りです。そしてこれからも、更なる世界の高みを目指し、襷が繋がれて行くことに、医学部後援会が少しでも貢献出来るよう、藤巻会長を中心に、活動を展開してまいります。

スポーツ健康科学部後援会【桜順会】

会長 杉山 祐資

スポーツ健康科学部後援会「桜順会」より活動状況をご報告します。

1. 役員会の活動から

9月14日（金）、役員会を開催しました。役員全員で、ここ数年「桜順会」に入会される卒業生の保護者の方々や更新会員の方々が減少傾向にあるため、その対策や今後の方向性、